



子どもの本や、子どもの読書活動に関する県内外の情報をお届けします！

山梨県子ども読書支援センター（県立図書館内） TEL 055-255-1040 <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

●○ 県内図書館紹介 ○●

■ 韮崎市立大村記念図書館

韮崎市立大村記念図書館は、韮崎市出身の大村智博士のノーベル賞受賞を記念して平成28年5月に韮崎市立図書館から改称され、平成31年2月には来館100万人を迎えました。今回は、韮崎市立大村記念図書館で行われているおはなし会や子ども向けの取り組みについてご紹介します。



おはなし会の様子

○おはなし会

・「だっこの会」 毎月第4木曜日

対象：乳幼児

内容：絵本の読み聞かせ、わらべ歌、手遊びなど

場所：よみきかせコーナー 時間：11:00～11:30

・「おはなし会・折り紙遊び」 毎月第2土曜日

対象：幼児から小学校低学年

内容：絵本の読み聞かせや手遊び、折り紙など

場所：よみきかせコーナー

時間：おはなし会 14:00～14:30

折り紙あそび 14:30～15:00

ボランティアグループ「たんぽぽの会」と共同で行われており、毎回楽しみにしている方も多いそうです。

○ 韮崎市図書館を使った調べる学習コンクール



第5回 韮崎市図書館を使った調べる学習コンクール

平成26年度から実施しており、今年度第5回が開催されました。市内在住・在学の小中学生が対象で、図書館の本を一冊以上使うこと以外は、テーマや作品の形式は自由です。

図書館では、「調べる学習応援講座」として、本の探し方やまとめ方の講座を行うほか、学校での説明会や相談会を行っています。

入賞作品は、韮崎市の生涯学習フェスタで表彰・展示されます。応募作品を返却する際は、職員がそれぞれの作品の感想や「こうするともっと良い」というアドバイスなどを書いた手紙を、一緒に渡しているそうです。

○POP展示

学校連携活動として、市内の小中高校生が作ったPOPの展示を行っています。

例年、韮崎小学校で行われたポップコンテストで選ばれた作品や、図書館で職場体験をした中高生のPOPが展示されます。

今年度初めての取り組みとして、甘利小学校と韮崎高校、韮崎工業高校の生徒が作ったPOPの展示も行われました。



展示の様子

○探求教室

図書館名変更に伴う新事業として、平成28年度より「探求教室」がスタートしました。月1回、3～5回程度の連続講座で、専門家の講義や、体験活動を行います。これまでに、新聞の作成やパン作りなどの教室が開催されました。

◆◆アクセス◆◆

韮崎市立大村記念図書館 〒407-0015 韮崎市若宮1丁目2番50号

TEL:0551-22-4946 FAX:0551-22-4950

<https://www.nirasaki-library.jp/>

追悼

児童文学界に大きな足跡を残した方々が、お亡くなりになりました。ご冥福をお祈りするとともに、経歴や著作をご紹介します。

絵本作家 かこさとし氏

1926年福井県今立郡国高村（現越前市）に生まれる。東京帝国大学工学部応用化学科卒業。工学博士。技術師（化学）。大学卒業後昭和電工に入社。社会活動に参加し、子ども会で紙芝居や幻灯、絵本などを作る。1959年に『だむのおじさんたち』でデビュー。「だるまちゃん」シリーズや「からすのパンやさん」シリーズなどの創作絵本、『かわ』『海』をはじめとする科学絵本などの著作がある。手掛けた作品は600点以上。2008年に菊池寛賞、2009年に日本化学会より特別功労賞を受賞。2018年5月2日、92歳で逝去。



『だるまちゃんと
てんぐちゃん』
加古里子／さく・え
福音館書店
1967年

みやかわ 児童文学作家 宮川ひろ氏

1923年群馬県利根村（現沼田市）に生まれる。金華学園教員養成所卒業。公立学校に勤務した後、「新日本童話教室」を受講、あまんきみこ氏らと同人誌『どうわ教室』を創刊する。1969年『るすばん先生』でデビュー。1978年に『夜のかげぼうし』で赤い鳥文学賞、1990年に『桂子は風のなかで』で日本児童文学者協会賞を受賞。『先生のつうしんぼ』『びゅんびゅんごまがまわったら』など学校を舞台とした多くの作品がある。2018年12月29日、95歳で逝去。



『しっばいにかんぱい!』
宮川ひろ／作
小泉るみ子／絵
童心社
2008年

おおつかゆうぞう 翻訳家 大塚勇三氏

1921年中国東北部に生まれる。東京帝国大学法学部卒業。出版社での編集の仕事のかたわら、ドイツ、北欧などの児童文学作品を翻訳する。中でも「やかまし村の子どもたち」シリーズや「長くつ下のピッピ」シリーズで知られる、アストリッド・リンドグレーンの作品を多数翻訳している。他の訳書に『小さい魔女』『小さなスプーンおばさん』『小さなバイキング』などがある。絵本作品では、モンゴルの民話をもとに再話した『スーホの白い馬』が代表作。2018年8月18日、97歳で逝去。

絵本作家 ジョン・バーニンガム氏

1936年イギリスのサリー州に生まれる。ロンドンにある、セントラル美術工芸学校でデザインとイラストレーションを学ぶ。1964年出版のデビュー作『ボルカはねなしガチョウのぼうけん』と、1970年出版の『ガンピーさんのふなあそび』でケイト・グリーンウェイ賞を二度受賞。『ねえ、どれがいい?』や『おじいちゃん』『いつもちこくのおとこのこージョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー』など、多くの作品がある。2019年1月4日、84歳で逝去。

翻訳家・絵本作家 もり ひさし 森比佐志氏

1917年神奈川県津久井郡（現相模原市）に生まれる。鎌倉師範学校卒業。教員生活のかたわら、絵本の創作や翻訳を手掛ける。創作絵本に、「こぐまちゃんえほん」シリーズ（わかやまけん、わだよしおみとの共著）、『くまさぶろう』『ちいさなきいろいかさ』『みずいろのながぐつ』など、絵本の翻訳に『はらぺこあおむし』や『たんじょうびのふしぎなてがみ』『はちうえはぼくにまかせて』ほか多くの作品がある。2018年11月9日、101歳で逝去。